

# 松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2016年7月4日 発行

松蔭中学校・高等学校  
校長 浅井直光

## 学期末の7月に入って

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志(こころざし)を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。  
(1970年新改訳聖書 ピリピ人への手紙 2:13)

朝、いつものように校門に立っていると、オスのノコギリクワガタがどこからか飛んできました。登校してきた高校生に見せると「松蔭、めっちゃ自然！」と感動の声。教室の冷房を入れ始めた先月中旬の出来事です。長期予報では酷暑の夏とのこと。エアコンを上手に使いながら、体調管理を心がけて夏バテせず乗り切りたいものです。今週末から学期末考査がはじまります。中間考査の反省のもと、全力投球を期待します。

1学期の行事を振り返ってみると、前半には4月の文化祭を皮切りに、GW後半には雨天のため途中打ち切り切りとなった遠足(各学年ごとに六甲山系への山登りなどの予定でした)がありました。校歌の歌詞のとおり、校舎の窓辺に「天そそる山摩耶六甲」の山並みがあります。神戸では、山麓の市民による「毎日登山」が行われ、朝に夕にと山筋に登る方が多くおられます。なぜ女子校生が山登り？と生徒からは不評ですが、せっかく神戸の山のふもとの学校に通っているからには、「町近(まちちか)」の六甲山の自然に触れて欲しいと思っています。

6月の学校という行事が少ないように思われがちですが、松蔭ではまず春の宗教週間があります。特別礼拝で創立前後の松蔭に関する講話を聞き、この期間に行われる授産施設「にじ作業所なないろ」のパン販売(生徒は「にじパン」と言っています)は楽しみの恒例行事となっています。

年一回の団体鑑賞会は、「北野徹とパーカッショングループ大阪」による打楽器オーケストラ演奏でした。マリンバによる校歌演奏に加え、打楽器だけのビゼーのカルメンはまさに圧巻。ご参加の保護者の皆様も楽しんでおられました。中2では海洋キャンプに続き、「赤ちゃん先生ようこそ」で生後3ヶ月～1才の赤ちゃんに触れ合い、そのお母さんからいろいろなお話を聞きました。「戦争体験を聴く会」(中3)では、戦中・戦後の体験を、旧教職員、卒業生の方などから小グループでじっくりと聞きました。「校内オープンキャンパス」(高校各学年別)は、関西圏の大学・専門学校の担当者から直接説明を受ける進路学習です。各自が進路を具体的に考える機会となりました。

高校1年の総合の時間には、ブルーアースプロジェクト(以下BEP)導入プログラムを、大学2～4年の卒業生13名を講師に各教室で行いました。BEPは「女子高生が社会を変える」をスローガンに、高3の3学期に進路が確定した生徒が取り組む社会体験・環境啓発活動で、現在、沖縄、名古屋、東京、仙台などの高校も参画し、本校の卒業生のなかにはNPO法人を立ち上げて活動を継続する者もいます。このBEPを高校1年にも拡大し、今回は、アクティブ・ラーニング方式(AL)の手

法の1つでプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL=課題解決について目標を立て、企画・準備して目的達成をはかる)と呼ばれるものを「松蔭の夏祭り」をテーマに体験しました。

各学年での取り組みの詳細は、各学年の「学年だより」や「PTAニュース」、HPをご覧ください。様々なプログラムや行事を体験することで、生徒の「志(こころざし)」が立ち、やる気のスイッチが入ることを期待しています。

## 18才選挙権をめぐる

選挙年齢の引き下げにともない、7月10日の参議院選挙では高3生徒56名が有権者となり、参政権の一部が認められます。マスコミでも取り上げられていますが、高校生の政治活動について、校外での政治活動を届け出制とする高校もあるようです。本校では下記のように教職員で確認しています。

- ①主権者教育を推進にあたっては、社会科教員だけでなく、全教員が教育の様々な機会をとらえて、主体性の育成、政治の当事者意識の育成をはかります。
- ②校内外の政治活動については、生徒を萎縮させないようにするため、事前に様々な制限を設けて生徒に通知することはしません。一方で、もし生徒が特定政党や候補者への投票を促す活動を校内で行った場合などにはこれを制限します。校外の活動については、保護者の承認の下で行われることとし、学校長への届け出については現時点では不要とします。
- ③「教員の政治的中立」については、私学教員は公務員ではありませんが、学校教育上の観点から公立学校教員に準じることとします。

2014年12月の衆議院総選挙では、20歳代投票率は32.6%。どの世代よりも低い数字でした。若者の政治離れ、政治に対する無力感などを払拭し、政治的主体性や当事者意識を持つようになるチャンスをとらえたいと考えています。

## 夏の国際交流

夏休みには、補習やクラブ活動の他に様々なプログラムが予定されていますが、国際交流プログラムでは、短期海外研修で34名の生徒が、ニュージーランドと韓国を訪問する予定です。

ニュージーランドではセント・ピーターズスクールを訪問。語学研修、ホームステイをしながら生徒交流を行います。この学校はニュージーランド北島中西部の都市、ハミルトン郊外のケンブリッジにある聖公会(英国国教会)系の共学校で、生徒数は松蔭とほぼ同数です。英国パブリックスクールを想起させる美しい校舎が、牧場かと思うほどの広大なキャンパスに点在しています。今年の中3～高2の14名が参加する予定です。なお、相互交流として1年おきとなりますが、松蔭への訪問団を受け入れています。

韓国へは20名の高1～高3生徒が、1902年創立のキリスト教主義学校信明(シンミョン)高校を訪問します。こちらの生徒たちは皆、礼儀正しく朗らかで、日本語を第2外国語として学ぶ生徒も多くいます。寮もある有名な進学校で、学校の自習室は深夜まで灯りが消えることはありません。

(裏面に続く)

信明高校がある大邱（テグ）市は、朝鮮半島東南部の人口約250万人の韓国第三の都市で、7世紀に朝鮮半島を統一し、日本と交流した新羅（しらぎ・シルラ）が都をおいた古都金城（クムソン）＝現在の慶州（キョンジュ）など世界遺産も近く、また古くから韓方（韓国古来の医学）や薬膳料理でも有名な都市です。かつては繊維産業が盛んでしたが、現在は先端医療産業都市をめざしており、神戸市との間で親善協力都市協定を結んでいます。

信明高校は、日本が朝鮮半島を統治していた1940年代に、校名を南山（ナムサン）高校と変更させられました。「信明」の文字が敵国である英米の宗教、キリスト教を連想させるから、というのがその理由でした。松蔭はご存じのとおり英国国教会（聖公会）の学校です。信明の校名変更と同じ頃に、同様の理由で礼拝や聖書の授業が禁じられました。制服の胸にあるSMSマークも敵性言語である英語との理由でほどくように命じられました。

若者同士の心やすさで、天真爛漫に心を触れあわせている両校の生徒交流の様子を見ると、学校の建学の基盤であるキリスト教を捨てることを迫られた歴史を共有していることも、何かしらあるように感じてしまうのは思い過ごしでしょうか。

高校に隣接して併設の聖明（ソンミョン）女子中学校があり、夏休み補習期間中の7月28日には、この学校から訪問団が来校し、中学生交流会を予定しています。来年夏の韓国派遣では、信明高校だけでなく、聖明女子中学校訪問の派遣生として中学生にも門戸を広げる予定です。

日韓は、近くて遠い国と言われてきました。歴史や領土の問題は、両国の政治課題としてこれからも残ることでしょう。しかし、その解決の道筋は、今、一人の人間と人間として向き合い、友情を育んでいる若者の手によって開かれるものと信じます。未来につながる今を大切にするため、神様に選ばれた生徒たちの交流を、私たち両国の大人は見守り続ける必要があります。

## 2015年度学校評価アンケートに見る本校の課題

本校の「学校評価」については、「自己評価」「学校関係者評価」「学校評価アンケート」の3種類を実施しています。学校ホームページ（以下HP）の「学校評価」（HP下欄にあります）には現在、2014年度学校評価アンケート結果、2015年度学校関係者評価を掲載しています。2015年度アンケート結果は、今年度「学校関係者評価」と合わせ3学期に掲載する予定です。

学校評価アンケートは、毎年3学期に全生徒、保護者を対象に匿名で回答していただく設問と自由記述で構成されています。設問の回答は「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「思わない」の四択となっています。集計結果については、担任、学年主任にフィードバックし改善をはかることになっています。これまで教員だけでなく、事務室での電話・窓口対応、守衛の対応などについてもご意見いただきました。各部署には改善の指示を出し対応しています。

HPでアンケート結果をご覧になるとわかりますが、回答項目は棒グラフで表示され、「とてもそう思う」が赤色に、「ややそう思う」が黄色になっています。赤色、黄色の2色が占める部分は、学校に対する「肯定的評価」と言うことができます。

アンケート結果全般に関する分析と対応については、今後も継続してすすめますが、ここでは、松蔭の「強み」と「弱み」という視点から見てみたいと思います。

設問のなかで、赤色の部分が最大となっている設問は、下記の項目でした。

**「松蔭に入学してよかったと思う」「松蔭で良い友人ができた」（中学生・高校生）**

**「子どもを松蔭に入学させてよかったと思う」（保護者）**

**「松蔭に入学してから、子どもには良い友人ができた」（保護者）**

中学生、高校生、保護者ともに「とてもそう思う」という回答が50%を超えています。「ややそう思う」の回答も加えると、これらの設問項目に関する中学生・高校生、保護者の「肯定的評価」は、中学生＝88%から高校生＝97%までの幅がありますが、高い数字となっています。特に高校生で、学校に対する全般的な印象の良さや、良好な友人関係が構築されていることは、松蔭の「強み」と言えるでしょう。一方で、これらの項目についても、否定的評価があることも事実です。大きな課題の1つと考えています。

逆に、赤色の部分の最も小さい項目（肯定的評価が最小）は、早急に改善すべき点といえます。特に高校生対象の設問で、学習・進路関連10問のうち（中学生は生活中心の、保護者はPTA活動や安全管理などの別内容の設問になっています）、赤色が最小となっている項目として、下記の大学受験対策、進学対策に関する箇所があります。

**「予備校や塾に通う必要がない」→「とてもそう思う」5%「ややそう思う」20%**

**「学校の授業や補習のみで、希望する進路に見合う学力が身についていると思う」→「とてもそう思う」6%「ややそう思う」35%**

**「自分に必要だと思う補習を受けることができている」→「とてもそう思う」15%「ややそう思う」50%**

これらの項目からは、現在の大学受験や進学にむけての体制が、高校生のニーズにしっかりと応えていないという問題点として浮かび上がります。一人ひとりの希望進路の実現をうたう本校としては、早急に対応しなければならない課題です。

「学校の雰囲気は良くて、友達もできる良い学校。でも大学受験対策は改善が必要。」

現在の本校の評価をやや乱暴にまとめてみると、このようになるのではないかと考えています。併設大学への内部進学と外部難関私大への進学。芸・保・看護など様々な分野への進路保障、さらには国公立大学への進学に対する指導と、幅広い多様な希望進路に対応できる学校として、「変革すべきこと」と、松蔭が大切にしてきた「変えないもの」を見極めていく今後としたいと思います。

## 私学助成について（2015年度補助金額）

私立学校の経営は校納金で成り立っていますが、不足を補うのが兵庫県、神戸市の補助金です。本校では、学校財政の約3分の1を占め、万一、制度が廃止されたり減額されることがあれば、校納金に大きく影響します。各私学は協力してこの制度の拡充を求めています。保護者の皆様のご理解をお願い申し上げます。前年度の補助金が下記のとおり確定しましたので、お知らせします。

兵庫県の経常費補助金など	322,078,800円	国庫金	4,544,000円
県を通じた高等学校就学支援金	50,668,220円	神戸市からの助成金	2,593,770円